

●各教科の考察

国語	2 学期は、1 学期とほぼ横ばいの数値であった。また若干数値の低下が見られた項目もあった。これは、部活動や校外での活動が活発になり、家庭学習に関する数値が低下したことが一因として挙げられる。 今後は、朝学習をはじめとした学校での学習に、自己課題を解決する経験の蓄積ができるような工夫をしたり、発問や授業展開を工夫したりして授業の魅力を高めていく。
地歴公民	2 学期は、1 学期の評価を踏まえ改善を講じた結果、日本史 B、世界史 B とともに「生徒主体の授業」の項目で、「1 ほとんどあてはまらない」、「2 あまりあてはまらない」という評価が減少した。 今後は単元ごとに、その単元のポイントとなる事項について話し合いや、発表の機会を適宜設けるなど工夫していく。
数学	2 学期は、ほとんどの項目で数値の向上がみられた。この数値から、数学 II、数学 B とともに生徒同士が話し合い意欲的に学ぶ姿勢が見られると同時に、生徒が授業の目標や意図を理解しながら授業に取り組んでいることがうかがえる。 今後も授業や単元の目標を明確にし、生徒が見通しを持って授業に臨めるように配慮して授業を組み立てていく。
理科	2 学期は全体的な数値の向上は認められたものの、1 学期よりも授業内容の難易度が高くなっており、意欲とともに理解度が低くなっていると思われる。一方で、実験などの経験的学習が加わると学習意欲や姿勢が向上するなどの傾向も見られる。 今後、物理基礎では基礎を固めることで理解を深め、化学では引き続き実験を工夫することで学習意欲を高められるよう努める。
体育	2 学期は、数値がほぼ横ばいであった。ただし、全体として「3 まあまあてはまる」の層が多い。 今後は、積極的に生徒の発言機会を設け、主体的に授業に臨める環境づくりを進める。また、話し合いや意見交換の機会を設定し、生徒が自ら取り組みへの充実感を感じられる授業を実践していく。
芸術	2 学期は、全体的に飛躍的な数値の向上が見られ、1 学期以上に生徒が意欲的に取り組んでいる状況がうかがえる。授業では、生徒が積極的に課題を考え、グループでの学習（演奏活動・作品制作）などに熱心に取り組んでいる様子がたびたび見受けられた。 今後も生徒自らで課題を見つけ、解決方法などを考えられるようにしていくための工夫を継続していく。
英語	2 学期は、若干ではあるもの全体的に数値の向上が見られた。具体的に「授業内容や展開に関する項目」では、プリントやまなボードなどの活用が生徒の積極的な取り組みに繋がったのか、評価が向上した。課題であった項目の評価も上がっており、改善の成果が表れている。 今後は、これまでの取り組み以外にも個人スピーチやディベートなどを取り入れた授業を行う。また、振り返りテストやペアワークなどを通じて行うなどの工夫をして授業改善していきたい。
家庭	2 学期は食生活分野の学習が中心となったためか、全ての項目において数値の向上が見られた。授業面では、パソコンなどを用い調理方法がイメージしやすくなる工夫などをした。また、家庭学習に繋げるため、実生活に取り入れやすい授業展開を意識した。 今後も、教科の特性を活かし、教え合いながら学習できる機会を充実させられるよう努め、自分の健康や食の安全に対する意識を高められるような学習展開を工夫していく。